



**水中では車えびに分がある
素早い動きに翻弄されるも
なんとか捕まえる**

いよいよスタートが近づき、浜辺に並ぶ参加者たち。その視界の先には、水面を跳ねる車えびが。否応にも胸が高鳴ります。スタートの合団と共に、参加者が我先にと一緒に海に向かって走り出します。僕も遅れまいと海に向かってダッシュ！「おった！おった！」、「やった！」と、少し興奮したような参加者の声が聞こえ、「坊主」だけは避けねば：と少し焦る(汗)。スタートしてから間もない時間帯は海中いるえびが見えるので、必死に追います。しか



参加者のみなさんとイイ笑顔！



車えび養殖事業発祥の地「秋穂」

瀬戸内海に面した秋穂は車えびの養殖を世界で初めて成功させた「車えび養殖事業発祥の地」です。1963(昭和38)年、「えび養殖の父」として知られる藤永元作博士が秋穂での車えびの養殖事業に乗り出したのが始まりです。秋穂は比較的温暖な気候で、かつ四季がはっきりしている車えびの養殖に適した環境。また、塩田の跡地が多くあったため、養殖事業が広まりました。秋穂で確立した養殖技術は、今では台湾や東南アジアへも渡り、世界へ広まっています。車えびは、おせちや贈答品のイメージから一般に冬の食材と思われがちですが、養殖に適している秋穂では、一年中美味しく食べられます。秋穂だけではなく、山口市内には新鮮な車えびを堪能できるお店が多くあります。ぜひ色々な場所でぶりぶりの食感と独特的な甘みをお楽しみください。



えび狩り世界選手権大会 参加体験レポート



秋穂・中道海水浴場を舞台に開催される超大人気イベント。放流された車えびを、網などの道具を使わず手づかみでどれだけ捕まえられるか! 雷太郎くんが体当たりで挑戦してきました。

当日はあいにくの雨…
でも、参加者の熱気は
まったく失われていない!



受付を済ませ、参加者の証し「リストバンド」と「カラー軍手」を受け取る。

放流し、40分間で誰が最も多くのえびを捕まえることができるか、という単純明快なルールで競います。受付を済ませると、隣から美味しい匂いが溢れるかのような盛り上がり。海水浴場の幅約250m、奥行100mの会場に約2万匹の車えびを

の定員に対し国内外から6万686人の応募、当選倍率はなんと41.8倍(驚)! 当日は小雨が降るのにくの天気ながらも、参加者の熱も開催されました。車えびの商業養殖発祥の地である旧秋穂町のPRのために、1991年から始まつたこの大会。今回は、1600名の定員に対し国内外から6万686人の応募、当選倍率はなんと41.8倍(驚)! 当日は小雨が降るのにくの天気ながらも、参加者の熱も開催されました。車えびの商業養殖発祥の地である旧秋穂町のPRのために、1991年から始まつたこの大会。今回は、1600名

Gourmet

えびフライ、焼きえびなどのえびグレメをはじめ、サザエのつぼ焼きなど、揚げたて焼きたてのグレメが多く並び、お昼時には多くの方が列をなして買い求めていました。人気の「ココエビ狩りー」は、地元商工会議所青年部の皆さんのが大会を開発した、ココナッツ風味のマイルドカレー。旨い!



潮風を感じながらヨット・カヌー体験



大会開始までの間、各自持ち込んだテントでリラックス。



白熱! 第1回あいおビーチフラッグス大会

